

城西大学入学式  
JOSAI UNIVERSITY MATRICULATION CEREMONY



ニュース

## 新学長に 白幡晶副学長

平成28年度  
秋季入学式・秋季学位記授与式・卒業証書授与式 挙行

紀尾井町から

二つの国際現代詩シンポジウム開催

目次

- 02 [ニュース]  
新学長に白幡晶副学長  
平成28年度  
秋季入学式・秋季学位記授与式・  
卒業証書授与式  
白衣式／留学生歓迎会
- 04 [ニュース]  
青柳正規氏講演会  
「自然・人間そして科学技術」  
バラ植樹式  
マリリア・コルボットさんコンサート  
「Emerald Song」
- 05 [紀尾井町から]  
国際現代詩シンポジウム  
「俳句と現代詩のあいだ」「詩と幼年時代」  
バーンスタイン氏講演会  
「ハンナ・アーレント——思考を侮る悪について」  
第1回「アイリッシュカフェ」
- 06 [ニュース][お知らせ]  
本学出身教員との懇談会  
道の駅プロジェクトがスタート
- 07 [シリーズ]先輩訪問  
時事通信ホール 支配人 渡辺 一さん
- 08 [シリーズ]学生互版ワイド  
学内外で活躍する城西人たち
- 10 [図書館だより]
- 11 [エリア紹介]  
越生町 四季の移ろいを感じるハイキング  
日高市 「かわせみの里 ひだかワンダーウォーキング」  
東武線沿線情報  
お得なクーポンで小江戸「川越」へ

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙  
森本雅憲学長が8月31日に退任。白幡晶副学長が9月1日、新学長に就任しました。9月15日に清光ホールで開かれた秋季入学式で初の学長告辞に臨み、「自らの能力を生かすために、厳しい道へ飛び込んでいくチャレンジ精神を持ってほしい」と呼びかけました。



ニュース

執行部人事

2016.9.1

# 新学長に白幡晶副学長

2016年9月1日、大学執行部の交代がありました。2008年4月から学長を務めてきた森本雅憲学長が8月31日に退任。新学長に白幡晶副学長が就任しました。また、短期大学学長に草野素雄副学長、大学院長に杉林堅次副学長が就任。新たな副学長には従二和彦薬学部長、玉城逸彦経済学部長、川邊純子経営学部副学部長が就任しました。

白幡新学長は1981年3月、東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了。米国ペンシルベニア州立大学医学部奨励博士研究員などを経て1985年4月、城西大学薬学部助手に採用。その後、2001年4月教授、2003年4月薬学部長、2008年4月から副学長を務めていました。城西の新たな50年のスタートの年に学長に就任した白幡新学長は「これまでの50年の歴史を踏まえて、新たな50年に向けてさらに勢いのある大学になることに貢献できればと思います。特に、地域の人々とのつながりと数多くの海外姉妹校を連携して活用し、学生の成長につながる新たな教育プログラムをつくるなど、郊外型キャンパスだからこそできる教育研究活動で特徴

秋季入学式

2016.9.15

## 建学の精神を理解して人生の指針に

—— 水田理事長



式辞を述べる水田理事長

今年度の秋季入学式は2016年9月15日、清光ホールで執り行われました。新たに城西の仲間入りしたのは、日本人大学院生と中国、韓国、ハンガリー、ポーランド、スロヴァキア、ミャンマー、スリランカの7カ国からの留学生43人の計44人。

式辞で水田宗子理事長は「建学の精神を自分なりに理解し、これからの人生の指針となるよう努めてほしい。このキャンパスでいろいろな日本人の学生と交流し、ともに考える良き友人をつくってください」と留学生に呼びかけました。

また、初の告辞に臨んだ白幡晶新学長は「城西大学では、多くの国にある海外姉妹校とのつながりを通して、地域課題を内外の学生がともに考える機会を増やしたいと考えています。皆さんには、大学の様々な活動を通して、留学中にかかわる地域の人々の生き方も学んでほしい」と語りました。

白衣式

2016.5.31

## 新入生507人が力強く宣誓

今年度の薬学部の新入生507人を対象にした恒例の「白衣式2016」が2016年5月31日、清光ホールで開かれました＝写真。従二和彦学部長が白衣式の趣旨説明をした後、水田宗子理事長、杉林堅次副学長兼薬学研究科長、従二学部長が、学生代表の櫻井優紀さん(薬学科)、廣世光呼さん(薬科学科)、倉内優香さん(医療栄養学科)に白衣を肩からかけて授与しました。白衣式には、海外姉妹校のポーランド・ウッチ大学の経済学部長や元理事長の一行4人と、長年ミャンマーの学生の日本での受け入れにご尽力された今泉記念ビルマ奨学会会長の今泉清詞会長にもご参列いただきました。

白衣を着こんだ新入生を前に、水田理事長は「皆さんの白衣を着た姿は、凛々しくて素晴らしいです。一日一日を大切に研鑽を積み、多くの経験を積んでください。そして、新しい50周年

ある大学を目指したいと抱負を述べています。

その他の役職教員の発令は以下の通り。(敬称略)  
経営学部長・点検評価情報管理部長(新井浅浩)▽教務部長(日比野康英)▽入試部長・経営学部副学部長(蛭川幹夫)▽広報部長・情報科学研究センター所長(中村俊子)▽別科長(澤野勝巳)▽国際教育センター所長(山口理恵子)▽地域教育医療福祉センター所長(金本郁男)▽経営学部副学部長(栗田るみ子)▽学生部副部長(山王丸靖子)▽入試部副部長(佐藤一郎)▽国際教育センター副所長(上田秀雄)



白幡晶新学長

## かかわる地域の人々の生き方も学んで

—— 白幡晶学長

駐日ハンガリー大使館のユハース・ジュルジ参事官や駐日ポーランド大使館のオスミカ・ウルシュラー等書記官の方々が来賓の祝辞を述べました。

新入生紹介の後、ハンガリーからの留学生、イエネイ・アグネシュさん(経営学部)が「私たち共通の目的は、それぞれの夢を実現するために学ぶということです。建学の精神に基づき先生方の指導のもと、夢に向かって努力していく」と誓いの言葉を述べました。



宣誓するイエネイ・アグネシュさん



に向けて創立者の志を引き継いで、世界に貢献できる人材に育っていただきたい」と呼びかけた。これに対し、新入生代表の荒井南海さん(医療栄養学科)は「白衣の胸には、私たちのこれから向かうところを示す羅針が模られた校章が刺繍されています。私たちは、我が国及び世界の健康・医療を支える人材になります」と力強く宣誓しました。

秋季学位記授与式・卒業証書授与式

2016.8.30

## キャンパスで得た知識と経験、絆や友情を支えに

入学式に先立ち、2016年8月30日に秋季学位記授与式・卒業証書授与式が清光ホールで執り行われました。この日、城西を巣立ったのは、留学生48人を含む106人。博士や修士のほか、学士、別科の代表者に森本雅憲学長から学位記や卒業証書が手渡されました。式辞で水田宗子理事長は「このキャンパスで得た知識と経験、そして絆や友情が皆さんの支えでもあります。どうか、学んだことを大切に自分の体の中に刻んで、社会に貢献できる人材になるよう努めていただきたい」となはむけの言葉を贈りました。8月31日で退任した森本学長は「厳しい社会ではありますが、先輩となる8万余の同窓生が皆さんを迎えるものと思っています。時には同窓生と語り、城西魂の尽きることのないエネルギーがわが身に宿っていることを思い出してください。新しい道が必ず目の前に現れてくるものと思います」と最後の告辞で卒業生を励ました。

来賓祝辞に続き、卒業生を代表して許書雯さん(現代政策学部)が「明日からの道は平坦ではないでしょうが、城西大学の卒業生であることに誇りをもち、明るい未来に向かって広く社会に貢献したいと考えております」と答辞を述べました。

引き続き、JUカフェでは「森本雅憲学長退任祝い卒業式祝賀会」が開かれ、森本学長に対する労いと感謝の言葉が相次ぎました。

退任祝い卒業式祝賀会で笑顔の森本雅憲学長(中央)



留学生歓迎会

2016.5.31

## 留学生約100人が教職員や地域の方々と歓談

今春入学した留学生の歓迎会が2016年5月31日、経営学部棟1Fメディアエリアで開かれました。大連外国語大学や東北財経大学、東西大学をはじめ、中欧諸国やASEAN諸国などからの留学生約100人と教職員や地域の方々約30人が参加。参加者は食事を取りながら歓談、楽しいひとときを過ごしました。

水田宗子理事長は「一刻も早く城西大学の学生たちと仲良くなって、いい影響、刺激を与えてもらいたいです。将来、皆さんの活躍が世界の繁栄と平和をもたらすことを期待しています」と呼びかけました。この後、東北財経大学からの趙陽さん(経営学研究科)とポーランド・ウッチ大学からのマルコビヤク・セバスチャンさん(現代政策学部)の2人が歓迎会への感謝の言葉を日本語で述べました。

アトラクションでは、大連外国語大学からの辛沢思さん(経営学部)とベトナム人学生グループ(別科)が歌を披露＝写真、盛んな拍手を受けました。



ニュース

青柳正規氏講演会 2016.6.15

「自然・人間そして科学技術」

ギリシャ・ローマ考古学の第一人者

前文化庁長官の青柳正規氏を招いた講演会「自然・人間そして科学技術」が2016年6月15日、清光ホールで開かれました。青柳氏には、本学が今春開設した先端科学研究所の所長に就任いただきました。講演は、水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズの一環で、青柳氏は8人目の登壇。人類の将来に示唆を与えるスケールの大きな講演に、100人を超える地域の方々や教職員、学生ら約500人が熱心に耳を傾けました。

青柳氏はギリシャ・ローマ考古学の第一人者。1944年、中国大連市生まれで、国立西洋美術館館長や文化庁長官を歴任されました。青柳氏は講演で「私たちは科学技術の恩恵を受けているが、その一方で危うさもあることを皆で認識することが大切だ」と指摘。他種の動物を捕食する動物を意味する「捕食者」は「人間にとっては環境」として、「人口数にまで影響を及ぼすほど環境悪化が



講演会後、学生代表から花束を受けた青柳氏

進んだら、自然循環はしないでおそらく人類は減っていく」と述べました。

さらに青柳氏は「歴史や文明の盛衰を見ると、発明、発見、工夫が人類を将来、もしかすると滅ぼす原因になるのではないかと」も述べ、「先端科学全体を見渡すことができず、神頼みのような怖い状態になっている今、科学技術の恩恵をただ享受するのではなく、どのような研究がなされているか、その貢献と弊害を我々一人ひとりが考えていかなければならない」と結びました。

バラ植樹式 2016.5.31

プラハ経済大学からの寄贈など  
3種のバラ

海外姉妹校のチェコ・プラハ経済大学から寄贈されたものなど3種のバラの植樹式が2016年5月31日、「水田清子記念ローズガーデン」で行われました。植樹式には、同じく海外姉妹校で来日中のポーランド・ウッチ大学のクフィアトウコヴスキ・エウゲニューシュ経済学部長、リッ・ヤン元理事長ら一行4人も参加しました。



植樹後の記念撮影

この日植樹されたのは、水田清子・元名誉理事長の名前を冠した新種のバラ「Seiko Mizuta」に加え、プラハ経済大学のハナ・マフコヴァー学長から贈

られたチェコのバラ「グルス・アン・テプリッツ」、返礼として本学からマフコヴァー学長に贈呈した新種のバラ「ハナ・マフコヴァー」の3種。

マフコヴァー学長は昨年11月、創立50周年記念の世界学長会議終了後に、城西国際大学の「JIUローズガーデン」のオープニングセレモニーに出席されました。その折、ローズガーデンに感謝され、今回の本学への寄贈となりました。

マリリアさんコンサート 2016.6.10

マリリア・コルボットさん  
「Emerald Song」

創立50周年のための特別曲も



歌手、作曲家として世界中で活躍しているマリリア・コルボットさんのコンサート「Emerald Song」が2016年6月10日、経営学部棟1Fプレゼンテーションルームで開かれました。ギターのジャンニ・カセロッテ氏とのデュオで展開された幻想的なステージに留学生や日本人学生、地域の方々約100人が聴き入りしました。

マリリアさんの音楽は、特定のジャンルに属さず、即興と構成された歌、緊張と弛緩、叙情性と力強さの間を自由に移動する比類のない芸術作品で、ジャンルを超えて世界中の様々な音楽家、視覚芸術家、ダンサーと共演しています。

この日は、夫で詩人の城西国際大学の吉増剛造・客員教授の詩を翻案として、創立50周年のために特別に作曲された「Rivers of Memory」など9曲が披露されました。

紀尾井町から

国際現代詩シンポジウム 2016.9.16

芥川賞作家が特別講演 朗読会も

「俳句と現代詩のあいだ」「詩と幼年時代」

国際現代詩シンポジウム「俳句と現代詩のあいだ」が2016年9月16日、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開かれました。芥川賞作家で詩人の多和田葉子氏が「だぶる文字、かさなる声」をテーマに特別講演。シンポジウム＝写真＝では、高橋陸郎（詩人）、高野ムツオ（俳人）、神野紗希（俳人）、田原（詩人・翻訳家、城西国際大学客員教授）の4氏から発言があり、多和田氏と水田宗子理事長がコメント



バーンスタイン氏講演会 2016.6.8

「ハンナ・アーレント  
——思考を侮る悪について」

アメリカの哲学者、リチャード・J・バーンスタイン氏を招いた特別講演会「ハンナ・アーレント——思考を侮る悪について」が2016年6月8日、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホール開かれました。

ハンナ・アーレント(1906～75年)はドイツ生まれの哲学者。第二次世界大戦中にナチスの強制収容所に連行されたものの脱出して最後はアメリカに亡命しました。1960年に逮捕された、ナチスのユダヤ人列車移送の最高責任者を務めたアドルフ・アイヒマンに

対する裁判のレポートは、「アイヒマン擁護」との批判も生み、全米で激しい論争を巻き起こしました。

バーンスタイン氏は「普通の人間が思考を放棄し、上からの命令に忠実に従うことでホロコーストのような悪に加担してしまう」とし、「思考停止することなく、立ち止まって考えることが大切だ」と結びました。この日午前は、バーンスタイン氏の妻でプリンモア大学教授のキャロル・L・バーンスタイン氏の講演会「文化的記憶の役割」も同キャンパス3号棟の国際会議室で行われました。



講演するバーンスタイン氏



一を務めました。水田理事長は開会挨拶で「俳句が西洋の詩に与えた影響は大きい。一度は俳句と現代詩の間にどういった表現の空間が広がっているのか向かい合ってみてみたいと思っていました」と開催趣旨を説明しました。

7月1日には、シンポジウム「詩と幼年時代」が開かれました。高旭東・中国人民大学教授が「魯迅 第一作目の小説における日本との関係性」と題して講演。中国側が、楊克、梁曉明、樹才、華清、从容、田原の6氏。日本側は、宇佐美孝二、竹内新、新延拳、野村喜和夫、三角みづ紀の5氏と水田理事長。座談会には、楊、新延、華、野村、田の5氏に水田理事長が登壇。水田理事長は「詩だけでなく創作するものにとって幼年時代は大きな原点。また風景と写真が幼年時代を語るキーワードになっている」と述べました。この後、梁、樹、从、竹内、宇佐美、三角の6氏が加わって朗読会が行われました。水田理事長はシンポジウムの開会挨拶の中で、日本で学ぶ留学生を対象にした詩歌賞「帰路賞」を創設したことを発表しました。

第1回「アイリッシュカフェ」 2016.6.24

「アイルランドからのメッセージ」

風呂本武敏氏が講演

元神戸大学教授の風呂本武敏氏を招いた第1回「アイリッシュカフェ」が2016年6月24日、東京紀尾井町キャンパス3号棟の国際会議室で開かれました。風呂本氏は1958年、京都大学文学部卒。神戸大学や愛知学院大学の教授を歴任。国際アイルランド文学協会の日本支部会長も務めました。

風呂本氏は「アイルランドからのメッセージ」と題した講演でアイルランドの歴史と日本のアイルランド研究の歩みを紹介した後、環状列石などの石文化、輪廻転生や変身譚などの思想に見られる日本文化との類似性にも言及しました。最後に、風呂本氏は北アイルランドとの紛争にも触れ、「紛争の中でよく言われたのが、『多様性を持った統一性』ということ。少数意見を尊重して多様な意見を持つことが自分たちのメリットになることにアイルランドは気がついた。これが、アイルランドが発している非常に大きなメッセージだと思う」と指摘しました。



講演する風呂本氏

ニュース

本学出身教員との懇談会

2016.8.27

# 佐藤拳太郎選手が五輪出場を報告

北海道、岐阜、愛知県で教鞭を執る先生約40人が参加

本年度の本学出身高校教員と本学教員との懇談会が2016年8月27日、経営学部棟のプレゼンテーションルームで開かれました。懇談会に先立ち、リオ五輪の陸上競技・1600mリレーの代表となった佐藤拳太郎選手（経営学部4年）の出場報告がありました。現役学生としては本学初の五輪選手となった佐藤選手は「今回は補欠としての参加で走る機会はいただけなかったが、4年後の東京に向けていい経験ができたと思う。4年後、競技者としていいタイミングでオリンピッ



リオ五輪の報告する佐藤選手(中央)

クがあるので、ぜひともご応援をお願いしたい」と述べ、大きな拍手を受けました。

クがあるので、ぜひともご応援をお願いしたい」と述べ、大きな拍手を受けました。

懇談会には、北は北海道、南は岐阜、愛知県の高校で教鞭を執る先生約40人が参加。水田宗子理事長はあいさつで「来春には創立者の記念館と新薬学部棟ができます。心一つにして50周年を迎えましたが、卒業生の皆様にも多額の寄付をはじめ大きなサポートをいただき感謝します。入試に向けて成果が上がるよう先生方から助言をいただきたい」と述べました。

本学の国際教育活動や入試状況の報告のほか、2人の学生によって留学体験や社会・地域貢献活動の発表があった後、懇親会も含めて活発な意見交換が行われました。



挨拶する水田理事長

お知らせ

道の駅プロジェクトがスタート

## 3者協力による地域振興への取り組み



動画を撮影する庭田ゼミの学生

本学と道の駅「おがわまち」(小川町)、関東地方整備局大宮国道事務所の3者が協力して行う地域振興の取り組みがスタートしました。この取り組みは、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するとともに、地域活性化の拠点となるべき「道の駅」の進化を図るのが狙いです。

小川町は、その伝統技術がユネスコ無形文化遺産に登録された和紙「細川紙」のほか、有機農業や和紙をふんだんに使った七夕まつりで知られます。「おがわまち」は1993年に埼玉県2番目の道の駅として登録されました。県内の伝統的手工芸品を集めた「埼玉伝統工芸会館」が敷地内にあり、和紙の実演体験もできます。

現代政策学部の庭田ゼミの学生が、町民との交流を通して、小川町の実地調査や小川町ブランド商品の開発・PR、小川町の風土と人をテーマにした映像作品による地域プロモーションを行い、新たな魅力を創出することによって小川町の観光振興を目指します。すでに学生たちは七夕まつりで同町を訪れ、観光PR用の動画撮影を行いました。小川町にぎわいの創出課の岡部克美課長は「若者の新鮮な見識で地域アピールに協力いただけることが、私たちにとっても刺激になります。大いに期待しています」とコメント。指導する庭田文近准教授は「大学の研究資源と学生の行動力で地域に貢献しながら、将来まちづくりを担える人材を育成したい」と話しています。

すでに学生たちは七夕まつりで同町を訪れ、観光PR用の動画撮影を行いました。小川町にぎわいの創出課の岡部克美課長は「若者の新鮮な見識で地域アピールに協力いただけることが、私たちにとっても刺激になります。大いに期待しています」とコメント。指導する庭田文近准教授は「大学の研究資源と学生の行動力で地域に貢献しながら、将来まちづくりを担える人材を育成したい」と話しています。



道の駅「おがわまち」

シリーズ

### 先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は時事通信ホール支配人の渡辺一さん(52)を東京・銀座の時事通信ビルに訪ねました。



## 苦しいことにも誠実に 向き合うのが解決の早道

時事通信ホール 支配人 渡辺一さん (1986年 経済学部卒)

——学生時代の一番の思い出は何ですか。

「学長だった渡辺徳二先生のゼミで経済学者・ガルブレイスさんが書いたベストセラー『不確実性の時代』をもとに勉強していました。卒業するに当たって研究発表をすることになり、私の選んだテーマは石油の代替資源についてでした。インターネットのない時代ですから、国会図書館で調べたり、発表も何枚かの模造紙に手書きしたり、グラフも作図して発表しました。そうしたら渡辺先生に『君の発表は、なかなか良かったよ』と言ってくれました。大学には多摩の自宅から2時間以上かけて真面目に4年間通っていましたが、それまでの先生にも褒められたことがなかったので、うれしかったですね」

——時事通信社は共同通信社と並ぶ日本を代表する通信社。時事通信社を選ばれた理由は。

「就職したころは、日本が一番元気がバブルの時代でした。電力やガス、航空会社といういろいろ回りました。これからはコンピューターの時代になるというイメージもあって、ソフトウェアを扱う会社も訪ねてみました。霞が関辺りを歩いているうちに、当時の本社所在地で、現在も日比谷のシンボリックな存在となっているレガ造りの市政会館に『時事通信社』の看板を見て、資料をもらおうとふらっと入ったんです。寄ったついでにその場でテストを受けさせられ、数度の面接もありましたが、気が付けば入社が決まっていた。特に通信社を選んで入ったというより、際どく巡り合ったというところです」

——営業部門の一方、記者として編集部門も経験、支局長も務められました。お仕事で印象深かったことは。

「通信社の仕事にはニュースを直接、役所や企業などのユーザーに届けるサービスがあります。20代後半にホンダにアルミを納入していた非鉄金属会社の広報部門に1年かけてようやくサービスを契約してもらうことができました。直後にそのサービスでホンダ創業者の本田宗一郎さんが亡くなったニュースが飛び込んできたので、広報部の次長さんはそのニュースをいち早く役員に伝えたそうです。その役員はすぐさまホンダの役員に

お悔やみの電話を入れたところ、「こんなに早く連絡をくれたのは、おたたくが初めてだ」とえらく感激してくれたそうです。その話を次長さんから聞き、営業マンとして通ったかいたががあったとしみじみ思いました。当時は、有線とインターネットの境の時代。その後も自治体や企業と組んで新たな通信技術を使ったサービスを手掛けるなどしました。ニュースを売る仕事だけでなく、提供方法とかいろいろなシステムまで含め自分で企画して持っている、そうした楽しい仕事ができたと感じています」

——愛読書と座右の銘を教えてください。

「30代から40代になってからは、精神的に鍛えられるような内容の本が多くなった気がします。司馬遼太郎さんの本はよく読みましたが、一つ挙げるとしたら、新渡戸稲造の『武士道』でしょうか。仕事を通じて、誠実さというのが一番大切だと思うようになった時期にピッタリはまったのだと思います。『誠』にこだわるのは、私の名前が『一』と書いて『まこと』と読むからなんです。自分でも謎でした。両親によると、名前の辞書からつけたらしいのですが、武士道の思想の中で言われるように、日本人が大事にしなければならないのは『誠』であり、そのことは物事の始まりでもある。そこから『一』の文字を採ったのだらうと、ようやくたどり着いた、という思いがあります。最近、社会の中で誠実さが薄れてきている感じがして、今こそ誠実さが必要な気がします」

——後輩へのメッセージをいただけますか。

「先ほどの話ではありませんが、社会に出ると、いろいろ苦しいこともあると思います。誠実に向き合って対応するということが、一番の解決の早道で、うまくいく方法でもあると思います」

#### ■時事通信ホール

時事通信ビル2F。ホール(262平方メートル)のほか、ホワイエ(約200平方メートル)、控室、ギャラリーなど。昨年7月から支配人を務める渡辺さんは「フラットなフロアで自由にレイアウトして使えます。地下鉄東銀座駅から徒歩1分のアクセスも抜群。機会があれば見に来て、使っていただきたい」と呼びかけている。東京都中央区銀座5-15-8。TEL:03-3546-6606

シリーズ

## 学生瓦版

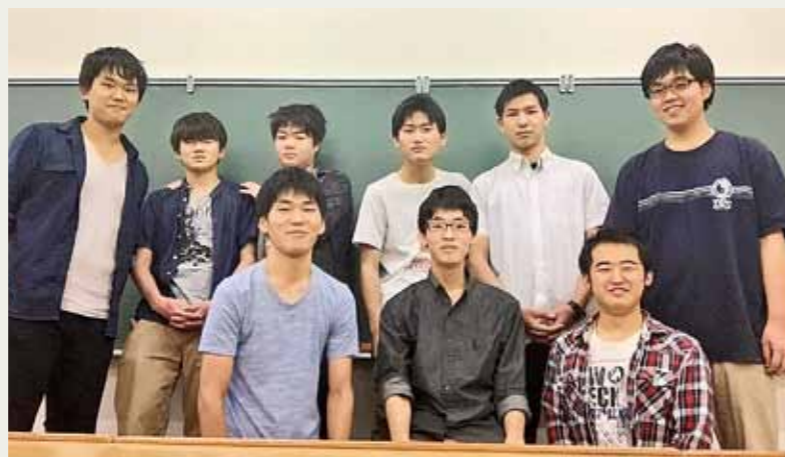
城西大学広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回もワイド版でお送りします。

### 今まで見えなかった新しい価値観を見いだす 映画研究会 副部長 小林達也さん(経済学部3年)

高麗祭に向けて短編映画の撮影・編集を行っている映画研究会。毎週金曜日に3年生7人、2年生3人、1年生4人の計14人で活動している。定期的な活動のほか、年2回ほど映画館に足を運び、借りてきた映画(DVD)の鑑賞会もしている。製作では、カメラアングルの変更や台詞の追加、修正を何回も繰り返す。その過程で当初の脚本から大きく変わることもあるという。

撮影時の苦労について、副部長の小林達也さん(経済学部3年)は「部員の都合や天候に左右されやすいうえに、思わぬタイミングで生活音などの雑音が入り込み、そのつど撮り直すこともある。それでも、作品の確認作業では役者や撮影・製作班の意外な一面を知ることがあり、やりがいを感じる」と話す。

映画研究会の目標は「映画の製作を通して



映画研究会のメンバー。後列左から3人目が副部長の小林さん

一つの目標を共有することで、今まで見えてこなかった新しい価値観を見いだすこと」だという。映画製作にかかわってみたいという人、映画に興味がある人は、映画研究会の門をたたいてみてはどうだろう。

取材:前田真杜(現代政策学部2年)

### 目安箱設置から履修相談会まで幅広く 経営学部学生会 望月大誠さん(経営学部3年)

経営学部の学生が所属する経営学部学生会。「経営学部を盛り上げよう」と、3年生8人、2年生9人、1年生5人の計22人が様々な活動を展開している。

その活動は、目安箱の設置のほか、地域の有識者から貴重な話を聞く講演会や新入生を対象とした県人会・履修相談会の開催など幅広い。ほかにも、8月と10月に開催される坂戸よさこい祭りへの参加、バレーボール大会なども開催している。

多くの活動をしている学生会。人数が少ないため苦労も多いという。代表の望月大誠さん(3年)は「お堅い団体だと思われているかもしれない



前列の左から2番目が会長の望月さん

が、そうではない。サークルに入るような気軽さで参加してほしい。いつでも受け付けているので、メンバーに入ってもらえたらうれしい」と話している。

目安箱は17号館メディアエリアにある。意見などを投函することによって、経営学部がより良く変わっていくかもしれない。

取材:佐々木美帆(経営学部1年)

### キャンパスライフを温かく見守ってくれる 株式会社 三耀 加藤拓也さん



右端が加藤さん

1976年の創業以来、私たちの学生生活をサポートしてくれているのが、「株式会社三耀」だ。支店の坂戸事業所は清光会館の地下1階にある。

本学と城西国際大学のキャンパス内の施設運営・管理をはじめ、合宿時などの保険申請や日ごろ何気なく使っている自動販売機やコピー機、証明写真といった学生生活には欠かせない設備の設置なども行っている。

坂戸事業所は4人で運営している。「キャンパスライフをサポートする」をモットーに、日々学生を温かく見守ってくれている。学生が利用する機会が多い食堂は、清潔で綺麗で気持ちよく利用できるよう日ごろから特に気を付けているという。

坂戸事業所の加藤拓也さんは「学生生活を身近に感じ、下から学生をサポートできることが一番の魅力。また学内の施設をたくさん利用していただきたい」と話している。

取材:齋藤宙生(現代政策学部3年)

### 自治体と連携した新しいプロジェクトも立ち上げ 広報委員会

城西大学には数多くの部活やサークル、委員会などの団体が存在するが、今回はこちらのコーナーを作成している広報委員会について紹介する。

広報委員会は、昼休みに学内で音楽を流したり、高麗祭やクラブ発表などで音響機材を提供したりして他団体をサポートしている。高麗祭では模擬店を運営、ステージでは他団体のPRを目的とした企画をしている。また、この「学生瓦版」の記事は、メンバーが取材、執筆、写真撮影をして

いる。今年になって、自治体と連携し「東武越生線沿線マップ」というプロジェクトを始めた。越生線近隣地域の魅力や優れた自然環境を学生の日線でアピールし、移住者の増加や観光産業を促



広報委員会のメンバー

進させるのが狙いだ。地域ならではのグルメや観光名所、祭事などをPRしていく予定である。さまざまな広報活動を全力で取り組むことによって、城西大学に貢献している。これからも新たなプロジェクトを立ち上げ、城西大学の発展に参加していきたい。

学生瓦版コーナーで紹介できる団体に常に募集しています。学友館の会室やtwitterでぜひご連絡ください。

取材:宮田諒汰(経営学部4年)

※広報委員会ではニュース・話題を募集しています  
jukoho1@gmail.com

図書館だより

地域アドバイザーミニ講演会(第8回ライブラリーラウンジ)を開催



6月15日、図書館グループ学習室6Bにおいて、地域アドバイザーミニ講演会「自分のこと、うまく話せますか?~自己表現の方法、教えます~」を開催し、13人が参加しました。講師の図書館地域アドバイザー、木村誠次氏=写真=から「自己表現のためには、まず自分を知ることが必要。総合大学で学べることを生

かし、自分の伸び代を見つけ活躍してほしい。謙虚になることも必要。『自己は他者』であり、一歩引くことで自分が見える。熊本地震では、多くの若者がボランティアに参加した。今の若者も昔の若者と同じくらい良いものを持っているのだから、それを出してほしい」と学生たちへ励ましの言葉をいただきました。

第9回ライブラリーラウンジを開催

6月24日、図書館グループ学習室6Bにおいて、第9回ライブラリーラウンジ「ひとりじゃない読書への誘い:ゆるほんでおしゃべり、しませんか?」を開催し、16人が参加しました=写真=。参加者は4グループに分かれ、それぞれ持ち寄ったお気に入りの本を3分間で紹介し、ディスカッション後、各グループで投票し一番読みたくなった本を選びました。この企画は、経営学部4年の奥富将司さんの

呼びかけによって企画され、学生アドバイザーと協力し開催に至りました。参加者アンケートでは「いろいろな意見を聞ける良い経験になった」「自分が手に取らないような本を紹介されて興味があった」「自分の好きな本が広まるのはうれしい」など読書を楽しむことへの前向きな意見を



聞くことができました。

著作権講演会を開催



6月28日、18号館101教室において、図書館主催講演会「知っておこう著作権2016」を開催し、授業として受講した薬学研究科の大学院生を中心に学部生、教職員など62人が参加しました=写真=。講師の大亀

哲郎氏からは、著作権にかかわる判例や五輪エンブレムの問題といった最近の事例や学生たちに身近なSNS利用時の注意点、論文作成の際の引用ルールなどをお話いただき、著作権を理解するための貴重な講演会となりました。

第2回「読書会ざくざく」を開催

7月2日、図書館グループ学習室6Bにおいて、テーマに関する本を持ち寄り紹介しあう「読書会ざくざく」を開催し、21人が参加しました=写真=。「地域における協力と地域の発展」のテーマで、3人が代表して本を紹介しました。参加者は3人の発表後、地方の人口減少や商店の衰退について地域産業を活性化する

にはどうしたらよいか、また地方の大学のあり方など様々な視点で意見を交わしました。参加者からは「学部内では聞けないこともあり、参加して良かった」「自分の就きたい職業について、地域にどう関わっていくべきかを考えた」などの意見



が出され、改めて地域について考える機会となりました。

エリア紹介

越生町

四季の移ろいを感じるハイキング

越生町では、四季それぞれに魅力ある越生の里を多くの方に歩いてもらうため、毎月第2土曜日に月例ハイキング大会を実施しています。コースは、原則「越生町ハイキングガイドブック」の12か月おすすめコース。歩きながら越生の四季の移ろいを感じてみてはいかがですか=写真=。11月は、健康長寿(樹)コースで、県内第1位の巨木である上谷の大クスなどを巡ります。

▽開催日:毎月第2土曜日(雨天の場合、翌日に延期。日曜日雨天の場合は中止)▽受付・スタート:越生駅前ポケット



パーク。事前申し込み不要、受付時間は8時30分から10時30分まで。

詳しくは、越生町ホームページまたは大会事務局まで。越生町ハイキングガイドブックはホームページからダウンロードできます。

○越生町ホームページ

<http://www.town.ogose.saitama.jp/>

○大会事務局:越生町役場産業観光課

TEL:049-292-3121

日高市

「かわせみの里 ひだかワンデーウォーキング」

霊 亀2年(716年)、大和朝廷は関東一円に住む高麗郡1799人を集め、この地を中心に高麗郡を建郡しました。そして今年、高麗郡が建郡されてから1300年を迎えました。

日高市ではこの歴史を広め、日高の魅力をより多くの人に知っていただくため、11月20日(日)に「かわせみの里 ひだかワンデーウォーキング」を開催します。コースは、26\*、18\*、

13\*、7\*の4コースに分かれており、自分の体力に合わせて、お子様からご年配の方まで誰でも気軽に参加できます=写真=。皆さんからのご意見をもとに毎年コースを工夫し、今年は狭山市と坂戸市の一部を歩く26\*コースが初めて登場します。

季節の風を感じながら日高ならではの美しい秋色を求めて歩いてみませんか。詳しくは、日高市ホームページをご覧ください。事前申し込みは、10月31日(月)まで、郵便振り込みでもお申し込みできます。



東武線沿線情報

お得なクーポンで小江戸「川越」へ

秋 といえばスポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋……いろいろとテーマが浮かんできます。秋はぜひ小江戸「川越」へお出かけください。かつて新河岸川の舟運で栄えた川越は、江戸との文化、商業の交流が盛んに行われていました。今でも江戸の風情が残る、蔵造りの町並みや菓子屋横丁などがあります。その他にスイーツはもちろん、芋料理など多くの飲食店が軒を連ねています。お出かけにはお得なきっぷ「小江戸川越クーポン」=写真=がオススメ。

小江戸川越クーポンのお求めは各駅窓口へどうぞ

各駅~川越間往復乗車券と、川越駅からの東武バス(区間指定)が乗り放題! その他協賛店の特別サービスもございます。

※ただし、10月15日(土)・16日(日)に行われる「川越まつり」の日には使用できないのでご注意ください。



編集/学校法人城西大学 広報センター  
発行/城西大学 総務部総務課  
〒350-0295  
埼玉県坂戸市けやき台1-1  
TEL:049-271-7712  
<http://www.josai.ac.jp>